

浦安市東野地区複合福祉施設（東野パティオ） / 小学部低学年

博物館出前交流 実施要領：日中一時支援“みらいの樹”（浦安市）との連携活動

1. 参加児童：知的障害のある小学部低学年の子どもたち（軽度障害） *保護者・介助者も参加可
2. 実施日時：2022年3月5日（土曜）、10時30分～11時45分
13時00分～14時15分
*同じ内容のプログラムを2回実施、各回の児童の定員10名程度
3. 実施場所：浦安市東野地区複合福祉施設－東野パティオ
4. 博物館出前交流のテーマ：“はくぶつかん”の たからものを たのしもう
5. 博物館出前交流のねらいと展開

(1) ねらい

- a, 博物館に展示されている宝物（まが玉）を触察し、記憶に残すことができる。
- b, 大昔の人の気持ちになって、玉を使った首飾りを作ることができる。
- c, 博物館という存在を記憶に残し、利用する意欲をもつことができる。

(2) 展開 / 75分

配時	児童の主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	児童への期待
導入 10分	始まりの挨拶と目的の確認 ・交流スタッフと挨拶する。 ・プログラム内容を確認する。 1. はじめの、あいさつ 2. “はくぶつかん”を、みてみよう 3. まが玉を、さわってみよう 4. パズルを、くみたてよう 5. くびかざりを、つくろう 6. おわりの、あいさつ	・にこやかに児童と対応する。 ・プログラム内容をホワイトボードに記しておき、見通しがもてるようにする。 ・学習の期待感がもてるように、内容を説明する。	・あいさつができる。 ・それぞれが取り組む内容について見通しをもつことができる。
展開① 10分	博物館を認識する ・博物館という言葉を知る。 ・博物館の展示室の様子を、パワーポイントの画像（または動画）で観察する。	・博物館の単語を全員でゆっくり発声して、意識できるようにする。 ・博物館には、珍しいものや不思議なもの、たくさん展示されていることに気づけるように導く。 *まが玉も、博物館に展示されていることに気づくように進める。	・博物館と声に出して言うことができる。 ・博物館の展示資料の多様さに気づくことができる。

展開② 10分	<p>まが玉を触察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物のまが玉を触察し、それぞれ触感などの感想を述べ合いながら、用途も考える。 ・まが玉の用途と、使われていた大昔の暮らしの様子を、写真とイラストで観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・触察は丁寧に扱うようにスタッフがアドバイスし、落としたり投げたりしないようにサポートする。 ・イラストの説明で、現在とは違う時代感を児童が感じられるようにする。 ・イラスト説明の間にスタッフは古代服を着て、説明終了後に再登場する。 *再登場したスタッフは児童に声をかけながら、楽しい雰囲気を作るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まが玉をやさしく扱い、触察を楽しむことができる。 ・まが玉が、大昔の装身具だと気づくことができる。
展開③ 10分	<p>パズルを組み立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まが玉パズルの組み立てに挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パズル (A4サイズ、4~6ピース) は各児童の年齢に合ったものを複数準備する。 ・パズルの組み立ては児童が2人1組となって順におこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まが玉のパズルを組み立てることができる。
展開④ 30分	<p>首飾りを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まが玉の首飾りを参考にし、ガラス玉やビーズを使って首飾りを作る。 ・作った首飾りを付けて、写真を撮る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作用の玉類を児童が誤飲しないように、スタッフは玉の数を確認しながら進める。 *玉に紐を通すのが難しい児童には半完成品を渡し、紐を縛ることで出来上がりとなるようにする。 ・写真撮影では、希望する児童は古代服も身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玉の首飾りを、楽しく作ることができる。 ・写真撮影で記憶に残すことができる。
まとめ 5分	<p>博物館をもう一度認識する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まが玉などの宝物を、博物館の展示でみることができることを、記憶に残す。 ・お礼と終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が博物館の名称を記憶に残し、行ってみたいと思えるようにする。 *学習を記憶に残すために、各児童が制作した首飾りと、博物館のネームプレートを、スタッフからプレゼントする。 ・全員で「ありがとうございました」と言い、プログラムの終了を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館を利用する気持ちをもつことができる。 ・お礼を言葉や態度で伝えることができる。

(3) 使用教具・機器

- 教 材 : 実物のまが玉・管玉・丸玉 (古墳時代)、まが玉の2次元パズル、首飾り制作用材料 / トンボ玉・ガラス玉・木製管玉等・革紐
- 機器・教具 : パワーポイント用PC、ネックストラップ (博物館ネームプレート用)